

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		JRの利便性の向上						予算事業名		企画調整事務経費			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令					
			02	01	07	0501	経常経費						
総合計画体系	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)							事業の区分	主要事業				
	2-3便利で快適に移動できるまちづくり(道路・公共交通)												
	②公共交通ネットワークの強化							担当課係等	企画政策課				
1 J R の利便性の向上							政策推進係						
事業期間		継続 (年度～ 年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
・結城市への、または市外へのアクセスが向上される。 ・利用者の利便性が向上される。 ・イベント開催による利用客数の増加							鉄道交通の利便性向上は地域活性化に寄与する。また、鉄道は広域な公共交通であり、関係自治体との連携も必要であることから、当事業が開始された。						
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】						
○ J R への要望活動の実施 ・水戸線に関する要望(東北新幹線、宇都宮線、両毛線への接続改善、便数の増加など) ・東北新幹線に関する要望(車両数や便数の増加など)							・結城市の鉄道交通 ・鉄道交通の利用者						
○水戸線の利用促進イベントへの参画 ・小学生対象の S L ツアー実施により水戸線乗車機会の創出、水戸ホーリーホック市民招待デー時の水戸線乗車機会の創出							【事業をとりまく環境の変化】 自動車および高規格道路の整備などが進み、地方の鉄道利用は頭打ちの状況も見られるが、通勤通学や貨物輸送など、社会活動に大きな役割を果たしていることから、社会ニーズの変化と利便性の向上について均衡を図りながら、事業を推進する必要がある。 また、駅からの2次交通との連携も図る必要がある。						
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】					
J R に対する要望活動及び利用促進イベントの開催				J R に対する要望活動及び利用促進イベントの開催				J R に対する要望活動及び利用促進イベントの開催					

■事業費

		H30年度	R01年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	28	28			
歳入計(千円)		28	28			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	19 負担金補助及び交付金	28	28			
歳出計(千円)(A)		28	28			
伸び率(%)			0.00			
備考	総合計画79ページ 予算書39ページ					

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	JRへの要望活動の実施	回	目標	2.00	2.00	2.00
	水戸線整備促進期成同盟会、東北新幹線小山駅停車増便期成同盟会において、関係市町村と共に要望活動を実施する。		実績	2.00	0.00	0.00
	水戸線の利用促進イベントへの参画	回	目標	3.00	3.00	3.00
	水戸線整備促進期成同盟会の事業に構成市町村として積極的に参画する。		実績	3.00	0.00	0.00
成果 指標			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	鉄道は公共交通であり、利便性の向上の必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	実施主体の協議会は、関係する市町で組織された妥当な団体である。
	手段の妥当性	A 妥当である	J Rとの定期的な意見交換や現状把握に繋がるので、要望活動は妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらも言えない	当事業は直ちに成果を期待できるものではないため、効率性よりも継続的な組織活動を実施することが重視される。
公平性	受益者の偏り	B どちらも言えない	鉄道は通勤通学利用だけでなく、不特定多数の利用があり、受益者の偏りはない。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	平成26年度から、水戸線は小田林、東結城駅に全便停車するようになっており、成果が出ている。
進捗度	事業の進捗	B どちらも言えない	水戸線は利用者が減少傾向にあり、要望事項のスムーズな改善は見込めない。一方、周辺自治体とともに定期的に要望を行うことが、現状の維持に寄与している。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
近年の若者の人口が減っていることに伴い、水戸線の利用者は減少傾向にあり、J Rとしても増便はできないと考えている。新幹線に関しても速達性重視の政策を重視し、停車数の増便は難しい状態である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
J Rの主張のとおり、今後、沿線住民の利用者が増加することは見込みが少ない。そのため今後は、観光利用などの周辺自治体が一体となった施策等に取り組むなど、沿線利用者の減少を食い止めつつ、外部からの誘客等にも対応していくべきである。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 利用促進イベントの実施に関しては、効果的な手法を常に模索するとともに、商工観光部門、シティプロモーションと連携したイベントを実施するなど広範なアイデアを募集し、利用者の増加を図り結果として利便性の向上につなげていきたい。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。